

JCCA 社団法人建設コンサルタンツ協会
2006 年度懸賞論文「日本の街は美しいですか」

これからの美しい街

～ 都市開発と歴史的建造物の共存 ～

室蘭工業大学工学部機械システム工学科 1 年

矢島 淳

1. はじめに

「美しさ」とは動物の中でも人間だけが持っている感覚である。人間は古代から様々なものに美しさを見出してきた。では、それを現代の街づくりにあてはめるとしたら・・・美の感覚は国や文化、習慣においてひとりずつ異なる。だからこそおもしろく、また難しいのだと思うが街の美しさを考える上で欠かすことのできない要素はその街の歴史と伝統であると思う。

私は自分の生まれ育った北海道札幌市の歴史と伝統の象徴である札幌時計台とそのまわりで行われている都市開発に着目し、都市開発と歴史的建造物の共存のあり方についての可能性を検証してみた。尚、札幌時計台の正式名称は「旧札幌農学校演武場」であるが文章中では分かりやすいように「札幌時計台」もしくは「時計台」を使用する。また写真1～5については2006年9月に撮影したものである。

2. 札幌市と時計台の歴史

札幌市は奈良・京都など千年以上の歴史を持つ“歴史の街”ではなくわずか137年ほど前に開拓史が設置されたばかりの街である。夏と冬の気温差が大きく一年の約半分を雪とともに暮らす厳しい自然環境ではあるがYOSAKOIソーラン祭りやさっぽろ雪まつりなど特色を活かした行事に活かされている。また1898年に3万7千人だった人口は2005年に188万人に達している。(図1参照)この急速な人口増加は1972年の冬季オリンピック開催前後の地下鉄開通など都市としての機能が充実したためによるものと考えられる。

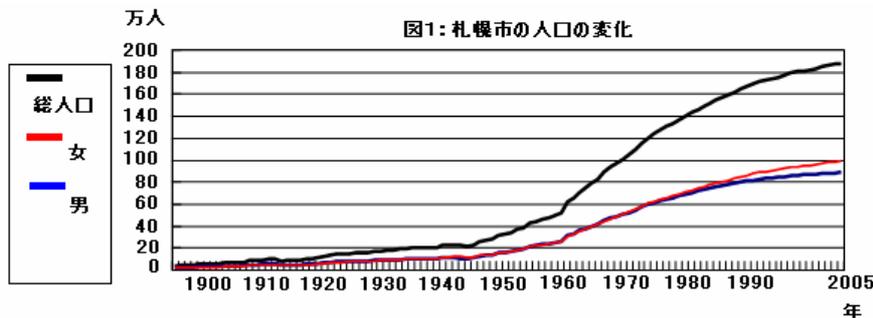


図1
札幌市 -
さっぽろ統計情報
(<http://www.city.sapporo.jp/toukei/index.html>)より作成。

札幌市民憲章の前章は「わたしたちは時計台の鐘なる札幌の市民です。」と始まる。札幌時計台は1878(明治11)年に札幌農学校の生徒の兵式訓練や体育の授業を目的に札幌農学校演武場として完成した。完成当初時計は設置されていなかったが1881年にハワード社の時計機械を設置し時計塔が完成。現在と同じ姿になった。1879年に札幌本庁が火事で焼失すると時計台が仮本庁舎として業務を開始した。その後1892年の大火で裁判所が焼失し1907年には郵便局が焼失したがいずれも時計台が仮業務を行う場に使用された。ちなみに1892年の裁判所焼失では時計台が延焼の危機にさらされたが学生達が屋根に上り消火に努めたという記録が残っている。

1906年に時計台は札幌区に貸与されると同時に解体されずに移転し公会堂として使用された。1911年から1966年までは第二次世界大戦中とその後の一部を除き図書館や講堂として使用され、時計台は学术交流の場など札幌と北海道の教育・文化の中心的存在であった。

1978年に一階展示室を設置し札幌歴史館としてオープンした。その後平成に入り耐震補強工事など大規模な保存修理事業が行われ現在に至っている。

現在では高さ 19.8 メートル、述べ床面積 759.8m² の木造二階建て構造で一階が資料館、二階がホールとなりコンサートなど芸術文化交流の場として広く市民に開放されている。

以上のようにわずか 137 年間の札幌市の歴史の中で 125 年もの間鐘の音を鳴らし続けている時計台はまさしく札幌市の歴史と伝統の象徴であり現在多くの観光客が訪れる場所でもある。



写真 1：札幌時計台

3. 時計台周辺の都市開発

札幌市の街並みは碁盤の目状に区画されている。(図 2 参照) また「札幌市たばこの吸殻及び空き缶等の散乱の防止等に関する条例」が平成 17 年に施行され歩道のゴミは数年前に比べ減少した。札幌市は梅雨のない夏や雪景色に変わる冬などその気候も含め、全体としては「美しい街」であると思う。しかし、札幌時計台を訪れる本州からの観光客の中には「北海道 = 広大な土地」というイメージと時計台を結びつけて想像し「広い草原の中に存在する時計台」を期待して訪れる人が少ない。札幌駅からすすきのまでの地区は東京でいう霞ヶ関、新宿、渋谷、池袋、六本木をすべて凝縮したような場所である。規模はそれよりも小さいが大型百貨店や飲食店、大手企業の支社、新聞社・放送局が集中している地区である。時計台はその中心に位置するため交通量が激しく観光客以上にビジネスマンが目立つ場所になっている。かつては時計台の鐘の音が一里(約 4 km)先まで聞こえたという記録が残っているが今では都会の騒音に掻き消され遠くでは聴き取れなくなっている。

写真 1 は絵はがきやパンフレットによく使われるアングルから撮影したものである。写真には写らないが実際には前後左右に高いビルが建っている。そして次項の写真 2 は時計台から約 100 メートル南の交差点から撮影したものである。二つの写真と図 2 の時計台周辺地図から時計台周辺の様子が分かるかと思う。



図2: 時計台周辺地図



<p>写真2：遠くから見た時計台 写真中央が時計台 左後方がJRタワー</p>	<p>写真3：札幌駅とJRタワー (2003年完成 高さ173メートル)</p>
---	--

写真3は時計台から約800メートル北に位置する札幌駅と2003年に完成したJRタワーである。JRタワーのオープン後札幌駅周辺に移転する大型店や新たに建設される建物が増加傾向にある。このほか最近ではすすきの駅周辺のビルの屋上に観覧車が建設され新たな名所となった。

4. 歴史的建造物が抱える問題と対策

近年になって建設された“近代的な”美しさをもつビル郡と昔からある“歴史的な”美しさをもつ時計台。それぞれまったく異なった美しさをもったものが同じ場所に存在している。個別に見ればどちらも美しいのだが周りをビルに囲まれ、コンクリートジャングルに埋没していく時計台の姿は歴史や伝統に配慮せず進められた都市開発を表しているかのようである。上空に首都高速が存在する日本橋など時計台に限らず日本の多くの歴史的建造物がこのような問題を少しは抱えているのではないだろうか。

歴史的建造物の抱える問題についてもう少し詳しくみていく。



<p>写真4：時計台の正面に放置された自転車</p>	<p>写真5：旧北海道庁（赤レンガ庁舎）</p>
----------------------------	--------------------------

写真4は時計台の向かい約20メートルのバス停で撮影した放置自転車の写真だ。当然のことながらこの場所は駐輪場ではない。歩行者はもちろんバスの利用者、観光客にとって非常に迷惑である。人々のモラルの低下が招く“景観破壊”もまた問題となっている。また、時計台周辺は交通規制がまったく行われていないため時計台の鐘の音をじっくりと聴けるほどの落ち着いた雰囲気とは程遠く周囲を見渡すとコンビニエンスストアや消費者金

融会社の看板が視界に入ってくる。

写真5は時計台と同じく札幌市のシンボルとなっている赤レンガ庁舎である。1888年に竣工され1969年に重要文化財に指定された。写真の左後方に見えるのは北海道警察本部、右後方に見えるのは石狩庁舎である。敷地が広いと時計台周辺ほどの窮屈さはないが正面から眺めたとき左右に存在する不釣り合いな建物にとっても違和感を覚える。

では様々な問題を抱える時計台周辺では具体的にどのような保護や対策が行われているのか。時計台は1961年札幌市文化財第一号に指定され1970年には国の重要文化財に指定された。その後札幌市では1998年に「札幌市都市景観条例」「屋外広告物条例」が施行され2004年には日本国内で「景観法」が施行された。2005年に「札幌市たばこの吸殻及び空き缶等の散乱の防止等に関する条例」が施行され重点区域（図2参照）でのゴミのポイ捨てや歩きタバコが制限されるようになった。しかし全体的に拘束力が弱く施行後間もないものもあるため市民や観光客の理解が十分ではない。

5. ヨーロッパ諸国の取り組み

ヨーロッパ諸国では景観や歴史的な文化財に対する取り組みが日本と大きく異なる。多くの国が景観や文化財の保護を国と国民の義務として位置づけており、憲法に明記している場合もある。また国の法律や州、市などによって独自の規制や条例を作り土地所有権などの制限や保護すべき建造物周辺の景観に配慮した建物の高さ、壁の色、材質など詳細な規制を設けていることがある。実際にヨーロッパを訪れた日本人観光客が驚くのは観光名所の景観だけでなく住宅街や市街地など生活と共に存在する統一感のある街並みであることが多い。

ヨーロッパの中でも私が特に興味を持ったのはフランスでの取り組みである。フランスの歴史的建造物周辺では「歴史的記念物周辺500メートルの規制」が行われている。これは歴史的な記念物の半径500メートル内の建物などに対し景観的に問題がないか審査されるものである。また歴史的な建物の多いパリ市内では「フュゾー規制」という景観に焦点を当てたユニークな規制も設けられている。このフュゾー規制はある特別な景観のなかに景観を阻害するような建物が入らないように高さ制限などをするものである。少し分かりにくいかもしれないが例えば写真5の赤レンガ庁舎の場合では正面から見た景観が「特別な景観」に当たり「それを阻害するもの」が左右の建物に当たる。つまり建物の建設を規制するわけではなく景観を阻害しない（赤レンガ庁舎に隠れる）高さならばよいことになる。パリ市内では45箇所にこのフュゾー規制が適用されている。

6. これからの街づくりに対する考え

誰もが自分の故郷やふるさとを大切にしているように私も自分の生まれ育った札幌の街を大切にしていきたいと思っている。近年では旭山動物園や世界遺産に指定された知床などを求めて本州や台湾、韓国、オーストラリアから北海道を訪れる観光客が多い。そして札幌を訪れる本州や海外からの観光客からの評価は「街並みが美しい」「四季の変化がきれい」などと決して低いものではない。碁盤の目状に整備された道路や街の中心部に東西約1.5kmもの広さを持つ大通り公園などは夏と冬にまったく違った表情を見せる。2006年9月にBRIブランド総合研究所が発表した魅力的な街ランキングで札幌市がトップになったことも街の美しさが関係していると思う。

しかし、美しい街をつくるということが必ずしも「新しいモノ」を作るということでは

ないと思う。時計台が市の文化財第一号に指定された1961年から十年後の1971年に時計台の南隣に高さ78メートルの札幌市役所が建てられた。私は時計台を保護すべき文化財に指定しておきながらその隣に景観に配慮せず高層ビルを建てるという市の矛盾した行動に疑問を感じた。赤レンガ庁舎の裏に作られた石狩庁舎と警察本部も同じであると思う。この件に見られるように北海道や札幌市は中心部の開発を優先させるあまりに歴史や伝統の保護を怠ったのではないかと思う。あくまでも私の考えだが私は都市開発を否定しているわけではない。むしろ北海道経済の中心である札幌に大型百貨店や大企業の本社や支社が集中するのは当然のことであり北海道経済全体を考えた上でも都市開発は今後も続けられるだろうしそれはよいことだと思う。しかし札幌の百年ほどの歴史の中にも守るべきものや培われた伝統がありそのことに対する誇りや責任を持ち大切にすべきであると思う。

自分の生まれ育った場所や街の歴史を大切にすることは自分の祖先を大切にするようなものであると思う。今の自分の暮らしと無関係なわけではないしこれから十年、五十年、百年と時間が経過していけばその間に十年分、五十年分、百年分の新しい街の歴史ができるのだと思う。今日になって時計台周辺の都市開発を後悔してもそれはほとんど手遅れである。しかし日本中の街で今日から何らかの対策や保護を行えば何もしなかった場合に比べ百年後の街には歴史的建造物が美しい状態で残されているのではないだろうか。それは各市町村のとても小さい活動であったとしても日本全体で見れば美しい街の集合体すなわち美しい国家になる。

ヨーロッパ諸国での歴史的建造物に対する保護が日本での保護よりも勝るのは地元住民の愛着と誇りが昔から強いからだと思う。愛着と誇りが強いからこそ様々な規制や対策ができたのだらうし愛着と誇りがあるからこそその規制や対策が守られてきたのだと思う。そしてフランスやドイツは美しい景観の観光地が多い国であるが決して経済的に劣っているわけではなく、文化的にも経済的にも世界の中で高水準に位置する国である。一方日本は経済的には世界のトップレベルであるが歴史や伝統に対する愛着が薄く歴史的建造物に対する配慮に欠けている。私は「破壊的な行為は人々の心を破壊し生産的な行為は人々の心を生産する」という中学生時代の美術の先生の言葉が強く印象に残っている。これからの日本の街づくりは「真の美しさ」を追求すべきだと思う。「真の美しさ」とは表面的な浅はかなものではなく街の一部分だけのものでもない、街の歴史と伝統を尊重した街全体としての美しさである。現在の日本の多くの街は“美しかった街”と過去形で表現するのが一番適当で現在形の“美しい街”が徐々に減少しているのではないだろうか。

美しい街づくりのために私は提案したいことがある。それは歴史的建造物や街が誇る景観周辺の清掃活動を地元の住民（特に小・中・高校生）が行うことである。札幌時計台の場合訪れる人のほとんどが観光客であり、地元の人はその前を素通りするだけで実際に中へ入ったことのある人は少ない。地元の人が清掃活動を行うことにより市町村等が行っている清掃活動費や維持費を他の保護活動へ充てることができ地元の人はその建造物などのよさや悪い点、問題点に気づくようになると思う。建造物や地域の清掃活動を行ったからといってすぐにそれが街全体の美しさにつながるわけではない。しかし長期間続ければ必ず地元住民は愛着と誇りを持つだろう。

私はたくさんの法律や条例や規則が美しい街をつくるのではなく歴史や伝統を守る多くの住民が美しい街をつくるのだと考えている。

【参考文献・ホームページ】

「都市の風景計画」（西村幸男） 「ヨーロッパの景観規制制度」（上田貴雪）

札幌市役所（<http://www.city.sapporo.jp>）

札幌市 さっぽろ統計情報（<http://www.city.sapporo.jp/toukei/index.html>）

札幌市時計台（<http://www15.ocn.ne.jp/~tokeidai/index.html>）

時計台紹介（<http://www.tokeidai.co.jp/tokeidai/index.html>）

BRI ブランド総合研究所（<http://www.tiiki.jp/>）

ヨーロッパの景観規制（<http://www.msoops.com/keikankisei.html>）

JR タワースクエア（<http://www.jr-tower.com/>）

総字数：6011 文字（表紙を含めない）